



2015年4月20日

AIIB の“lean, clean and green”

公益財団法人 国際通貨研究所
開発経済調査部 主任研究員 福田 幸正

“lean and mean”という英語の慣用句は、「無駄を削ぎ落とし、一途にことに当たる」というような意味らしい。世紀の和解ともいわれたイスラエルと PLO の間のオスロ合意（1993年9月）後、中東・北アフリカ地域を対象とした国際開発金融機関（MDB）、中東開発銀行の設立の動きがあった（その後、地域の政治情勢の悪化によって、銀行設立は棚上げとなった）。その中で、米国は中東開銀の経営は堅実を旨とし、肥大化した官僚組織にならないことを強く求め、“lean and mean”という表現を多用した。

最近、この“lean and mean”を意識的にもじったような表現が目にとまった。“lean, clean and green”である。アジアインフラ投資銀行（AIIB）のホームページに掲げられている AIIB の活動方針（modus operandi）は、“lean”（少数精鋭の陣容）、“clean”（高い倫理基準、腐敗に対するゼロ・トレランス）、“green”（環境重視）。その上で、「AIIB は、ガバナンス、説明責任、財務、調達、環境、社会分野で、強力な政策を導入する」としている。これは、中東開銀設立の際、“lean and mean”を強く求めた米国に向けた AIIB に誘うためのサインか。そうだとすれば、中国はよく 20 年前の話を掘り起こしてきたものだ。それに、“lean, clean and green”は、無骨な響きのある“lean and mean”よりもはるかにスマートだ。

中東開銀の“lean and mean”を巡っては、こんな案も出てきた。全く新しい銀行をつくるのなら、IT 時代に相応しい MDB を構想すべき。たとえば、壮麗な本部ビルを構えることを所与のことにするのではなく、インターネット上に銀行を立ち上げるというのはどうか、と。こう切り返されたら、21 世紀に相応しい MDB を標榜する中国はどう反応するだろうか。なお、最近の報道では、中国は AIIB の理事会を非常設とし、E メールなどで各国理事の承認を求めるとしている。それで銀行発足当初に起こりうる様々な問題に迅速に対応できるのか。“lean, clean and green”な経営が軌道に乗ることを見届けるまでは目が離せない。

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべて御客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくお願い申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、その正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されています。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。